

## 努力事項 その5 (中学校)

「学校教育指導の重点」の美術の努力事項をひとつずつ考えていきます。今回は、学習指導要領の内容に照らして、以下について考えてみます。

生徒が、自己の感性をもとに自信を持って表現や鑑賞の活動に取り組み、互いの表現のよさや個性などを認め合いながら活動できるよう、評価場面の設定を工夫する。

1 これは、どういう意味なのでしょうか？

これは

自分なりに感性を働かせて感じ取ったことを基に発想し構想して表したことを認め励まし、自信を持てるような評価を行いましょう。

また、制作の過程や完成段階などで、自分の思いや工夫したところなどを発表したり、他者のよさを認め合ったりして、自己肯定感をや制作への意欲を高めるような評価の場面を設けるようにしましょう。

ということです。

発想や構想から完成までの全ての段階にわたる表現について、生徒に自分の取組を見つめさせる活動を取り入れ、「あー、自分はこんながんばってきたんだな。」「自分もやればできるんだな。」という自分のよさに目を向けることができるような評価を行いましょう。具体的には、ワークシートに自己評価の欄を設け、生徒に自分の努力や工夫を記載させ、それについて、教師が肯定的に捉え称賛することなどです。何より、生徒が「自分は一生懸命取り組んだ」と自己評価できるように、題材のねらいを明確にし、個別指導の充実に取り組んでいきましょう。

また、制作の過程や作品が完成したときなど、学級全体やグループなど形態を工夫して生徒が自分の思いや工夫したことなどを発表したり、他者のよさを認め合ったりして、互いが学んだことを共有する機会を設けるようにしましょう。

生徒が一生懸命作った作品を互いに鑑賞し合い、互いの考えを交流させ、学び合わせることで、互いの表現のよさや個性などを認め合い尊重し合う態度を育てるとともに、自己肯定感や次の制作への意欲を高めるようにしましょう。

具体的には、

- (1) 日頃から生徒同士の間関係について配慮し認め合うような雰囲気作りに努めましょう。
- (2) 学級で話し合う場面では、生徒の意図が作品にどのように表れているか教師がしっかり把握しましょう。
- (3) (2) で把握したことを肯定的に捉え生徒たちにしっかり伝え、称賛していきましょう。



次回は、小学校の努力事項「児童一人一人が表現意欲を高め、自分らしい思いを一層ふくらませて活動できるように、その子なりのよさを自覚させたり自信を持たせたりするなど、個のよさを認め、支援に努める。」について考えてみます。

7月26日（金）頃アップの予定です。